



2010年9月発行

サポート通信



第12回公開審査会を開催 11グループへ助成を決定

第12回千代田まちづくりサポート公開審査会が、6月19日(土)、ちよだプラットフォームスクウェア5階会議室で開催されました。今回は一般部門11グループ、トライアル部門3グループから活動助成の申請があり、審査の結果一般部門8グループ、トライアル部門3グループの活動助成が認められました。当日は申請グループや関係者、一般来場者など約100名が目にするなか、申請グループから活動内容の発表と審査が行われました。

今回は、継続の8グループの他、アートを通し活気ある交流・交感ができる場づくりの活動を行う「エイブル・アート・ジャパン」、新住民と旧住民の問題解決や、住みたい街から住み続けられる街を目的に活動する「神田.SUM」、バリアフリー情報満載の地図を作り、歩きやすい町を目指す「Live With Dream」など新しく6グループの活動が加わりました。なお、公開審査会の資料に掲載されていた千代田マンション交流会は、審査会直前に申請を辞退されました。

◆ウォークショップ「さぼてん」

助成活動については、中間発表会(11月20日(土))、活動成果発表会(来年3月予定)で報告されます。(会場:ちよだプラットフォームスクウェア5F, 会議室)

また、中間発表会当日には、CSC(千代田まちづくりサポーターズ<http://anchorplan.jp/csc/>)主催のウォークショップ「さぼてん」が実施されます。「さぼてん」とは、助成グループの「活動現場を歩いて巡る」もので、今回は3~4グループの活動(結びの会・Live With Dream・千代田の野鳥と自然の会など)を見て回る予定です。どなたでも参加できますので、皆様是非お越しください。詳細は「まちみらいニュース(10月号)」で。

CONTENTS

【第12回助成申請グループ(発表順)】

〔一般部門〕

(3回目)

- NPO法人 WEL'S新木場 2
- NPO法人 ちきゅう市民クラブ 2
- 神田探偵団 2

(2回目)

- 神田人 3
- かんだもん 3
- 神保町Art-Live-Rally実行委員会 4
- EAST WIND 千代田 4
- 結びの会 5

(1回目)

- エイブル・アート・ジャパン 5
- 神田.SUM 6
- Live With Dream 6

〔トライアル部門〕

- 千代田の野鳥と自然の会 7
- たまごかけごはん
TKG16東京家政学院大学 7
- 四ツ谷活性化プロジェクト 8

【総評・審査会委員講評】

8

【賛助会員のご紹介】

12



1 (NPO法人 WEL'S新木場) 千代田のみんなが関われる屋上プラットフォーム



これまでに構築された「地域提携」を、本年度はさらに発展させるために、屋上菜園の管理について自主的、継続的に自立できる仕組みを作り、都心ならではの地産地消に挑戦します。具体的には、天空日和(レモンバームの化粧品)プロジェクトに続き、①ブドウを育ててワインを作ってワインパーティー②収穫された野菜をカフェに提供③屋上イベントの実施、など専門家を巻き込み、既存の資源を有効利用した活動を行います。これらの利益は基金に充て、日常管理を行う障害のある人への運営費に活用するなど、屋上菜園に関わる関係者の皆様に還元できるよう、循環型の活動を展開していきます。

- Q: 地元から余りWEL'S新木場の名前が上がってこないが、地元や地域へのアプローチをどうしていくつもりか?
- A: 天空日和プロジェクトやワインプロジェクトを通して、地元や地域へアプローチしていきたい。また、SOLAさんから地元のお子さんと野菜栽培をしたいという話もある。お店に天空日和をおいてもらうのもPRになる。
- Q: 活動が一般に入れられない屋上に限定され、1年目2年目より活動が狭くなっているのではないか?
- A: これまでは主に体制・仕組みを作る時間だった。また事例を作ることに集中した。これから千代田区の方々に知っていただくときだと思う。
- Q: 屋上のブドウだけでは葡萄酒はできないと思うが?
- A: 24本植えてあるが、これだけではできないので同じ品種のブドウでワインを作っている醸造所にこのブドウを入れてもらうことを考えている。

2 (NPO法人 ちきゅう市民クラブ) 異文化理解を推進する活動を通じて、より受容能力の高い豊かなまちづくり



これまでの基幹事業である小学校・幼稚園での異文化理解ワークショップは、今年もアジア・中東の国を中心に展開し、中学校にも広げていきたいと思えます。これらは、次世代を担う子どもたちの多様な価値の受容能力を高めるのに貢献できると思えます。大使夫人の講演・交流会も継続し、今年はサウジアラビアを予定しています。イスラム圏の女性の生活を直に聞き、双方向の交流もできる機会は、一般参加者の関心と意識を高め、学校でのワークショップとの連動で、家庭内で話題となるなど、相乗効果を得られればと期待します。今年には更に、ソーラーキッチンによる環境学習、

- 世代交流事業を企画し、千代田区の歴史文化なども題材に、他団体と連携できる内容も盛り込みます。
- Q: 今後活動を発展展開させるために、3年目として最低限必要な助成の項目は何か?最も重要な経費は何か?
- A: 新しくソーラーキッチンに取り組んでいる。子供たちに環境問題を考えてもらいつつ、留学生と一緒に料理を作って交流できると良いと考えている。また、活動を千代田区から外に向かって港区なども行おうと考えている。
- Q: 4年目以降千代田区で定着してもらえますか?
- A: 麹町以外にも広げていきたい。
- Q: コンセプトは共感、街づくりにもなっている。ただし、3年目も講演会だけなので、それにまた助成金を出すのかということに?他のプログラムがあるのでは。
- A: 環境問題は新しい取り組みである。

3 (神田探偵団) 続・歩いて感じた「神田」の魅力を本にしよう。

故郷「神田」を知ることをテーマに第2回まちづくりサポートに参加して以来、「神田町歩き」「神田探偵団HP」「フィルム映写会」「講演(話会)」等の活動を継続している。その

中で昨年度第11回まちづくりサポートに応募して「神田町歩き本」を制作出版した。今回はその続編を制作する。前回は江戸下町をテーマにしたために、いわゆる神田と呼ばれ



ている地域を全てカバーできたわけではないので、前回歩けなかった地域を補う。具体的には、岩本町東神田地域・秋葉原東部地域。そして明治期より町人地となった駿河台・小川町・西神田・錦町方面を歩く。前回同様、神田の魅力の本という媒体を通じて発信する。

Q: 昨年実績が良くて、評判も良く色々なマスコミなどにも取り上げられ、助成金は必要ないのでは?

A: リスクを負うので個人では辛い。利益を目的としていないし、普段の神田の町歩き、ホームページの活動に

は助成金が必要ないが、本の作成には是非お願いしたい。

Q: 申請書、趣味の散歩からライフワークに変容して来ているとあったが、とても貴重なことだと思う。今年3年目だが弟子を育てる可能性はあるか?

A: そこまでの余裕や大それた考えは持っていない。後継者は神田の町が好きで、自然発生的に現れると期待を持っている。

Q: 昨年の冊子は素晴らしかった。その勢いがあるときのほうが良いものを作れると思う。作った冊子はどこかに置いて見られるよう、後々に残すようにしてほしい。

4 (神田人) 千代田の人の輪を広げよう



神田に居住している人々に、神田が住みよく・楽しい・学べる街であることを、より実感してもらえよう、街の情報を出来るだけ多く発信し、人々の交流の場を提供していく。

特に高齢者の人口比率が高いことに配慮し、1人住まいの高齢者が、活動の場を得ることができるよう情報提供していく。また、居住しているだけでなく、通勤・通学で神田を利用する人々にも、魅力ある街として、情報宣伝活動を行う。子供から高齢者まで、年齢や性別を意識せずに相互理解を育めるコミュニティ作りに励み、神田の街の活性化のために活動していきたい。

Q: 高齢者を巻き込みたいということだが、具体的にどんな接点を持っているのか、町会の福祉部は1人暮らし

しの高齢者と接点があるので、どのように活用していくか?

A: 福祉部とはまだ接点がないが、月1回商店街の会合に出て馴染んでいけるようにしている。私自身仕事の関係上、成年後見センターで研修を受けていて、他の企業も協力する話が出ているのでやっていく。

Q: 活動の広がりを感じるが、入場料収入をあてにしているのが少し心配だが。

A: 区民ホールなどを借り、場所代がかからないようにする。芸人もボランティア感覚でやってくれるので、ひとりでも多くの人に来てもらい、開催することを趣旨とした。1回目はシビアでも継続して、収入がとれるような団体にしていきたい。

Q: 高齢者を呼び込むため何をするか、方法を周りの人に相談してみると良い。

A: まだ折り込みチラシなどしか考えてないので相談したい。

5 (かんだもん) 観光地としての神田を盛り上げよう! 神田を知って、来て、楽しんでもらう!

「神田駅周辺エリア」の魅力を社会的にプロモーションし、神田をより多くの人に知り・来て・楽しんでもらう。神田駅は秋葉原・東京から一駅、日本橋や大手町から徒歩5分という好立地で、周辺は安くて美味しい飲食店に富み、

昔ながらの街並みや老舗、江戸時代からの本物の下町としての歴史を体感できるなど、観光資源に富むエリアであるにも関わらず、あまり知られておらず、下町として知名度が低い。そんな神田駅周辺エリア・江戸古街の魅力を多



くの人に発信するための活動を行っている。

Q：観光地としての神田というのが良い。学生と地元が組

んだ強力メンバーだと思う。2年目だが、神田ファンが増えた実感はあるか。

A：ネットでマップのことを検索した方もいたし、大手町と神保町からも足を運んでくれる方がいるといった声も聞いた。

Q：助成終了後の成長目標として、神田駅インフォメーションセンターとの連携とあったが、

A：連携していく予定である。

Q：作ったマップの配付方法は。また、1年ほどでまたマップを作るということだがどんなものに仕上がるのか。

A：掲載されたお店などに配付したり、商店街・区内施設・秋葉原・丸の内などに置いている。今年は2つの新しいコンテンツのマップを作る。一つは7月にお祭りのある「神田駅西口商店街」からの委託、もう一つは秋に予定している「パワースポットMAP」。これはまだ構想段階で、お稲荷さんをテーマに考えている。参加型のスタンブラリーにして、このエリアを回っていただくことも考えている。また、神田の地元の人しか知らないグルメマップの英語版も考えている。

6

（神保町Art-Live-Rally実行委員会） 「神保町×Art×Enjoy=∞」



肌で感じた神保町の魅力を老若男女問わず、あらゆる人に伝えるきっかけとなる空間、Art Live Rallyを創る。「神保町×Art×Enjoy=∞」というキャッチフレーズのもと、神保町

という舞台上で様々な人々が織りなすアートをツールとして使い、食・展示・ライブ・ブックカバーコンテストといったイベントを通じてコミュニケーションを促します。そのことにより来場者、参加者、町の方々全体で、楽しむという気持ちを共有できる空間を作ります。今年は舞台を完全に神保町に移し、昨年の大学施設を利用した閉塞感をなくしました。

Q：ゼミ活動ではないのか。また、全員卒業した後成果はどう引き継がれるのか。さらに、地域の人と関係が出

来た場合、大学卒業後はどうするのか。

A：母体はゼミナールであるが、アートコミュニケーションの意識が高い、神保町が好きなメンバーが集まっていて、ゼミそのものの活動ではない。また、人員構成が3年生と4年生からなっていて、継続性を考慮している。将来的にも、アートライブラリー終了後の店舗などへのご挨拶はもちろん、すずらんまつりなどにも積極的に取り組み、継続的に繋がりをもっていきたい。

Q：場所を大学外にしないでいいのか？場所の問題ではないはずだが？

A：昨年の反省として、神保町と積極的に関わっていくことが、アートライブラリーの底上げにつながると考えた。大学と人を結ぶのではなく、人と人を結ぶ活動にしていきたいと考えている。ただ、場所の問題ではない面もあるが…。

7

（EAST WIND 千代田） 千代田の山手線東側地区を広く知っていただき、活気溢れる街にする



千代田区の秋葉原駅から神田駅にかけての東側地区と西側地区とでは、活気が全く違います。

特に秋葉原駅を中心に見た場合、電気街・ダイビル・UDXビル(クロスフィールド)のある西側は人々が観光や買い物に訪れ、土・日曜日

には身動きがとれないほど活気があります。それに比べ、昭和通り・三井記念病院・和泉公園・佐久間公園のある東側は、住宅も多く、閑散として寂しい限りです。

そこで、住民の安全・安心を確保しつつ、人で賑わう街づくりをめざします。まずは街の概要を調査することから始め、この地区にある、8町会、店舗約270店の情報を発信していきます。

Q：東地区の活動ということで頑張してほしい。昨年学んだことを教えてほしいのと、今年はこれをやると何か約束してほしい。

A：何度も挫折する思いをした。成果を形で残さないとお金も集まらないと勉強になりました。7月までにはホームページを作り、マップも作りたい。それによって広告・協賛に対する理解も深めてもらえるのではないかと。広告収入があれば素晴らしい企画ができる。新メニュー対決選手権など街をあげてやりたい。

Q：形にこだわらず、焦らずやってほしい。申請書にある、人々の役に立つ汗をかく活動、街の美化のための清掃協力、声かけ運動の推進、まずこれからやってほしい。率先してまちで動いてほしい。情報発信も良いが住民の安心・安全を確保し、汗をかくような活動を同時にやれるか。

A：もちろんやっていきます。

8

（結びの会） 心のまちづくり…昔と今の、人と街を結びあう



「今の人と人」また「世代と世代」の心を結ぶことを目的としている。千代田区の特性は、商住混在。心の豊かな街は、「声かけ」を起点として相互理解を深めることから獲得できる。「時間も金もかけない、心をかける」日常サポートが継続性ある街づくりとなる。対話のツールとして、機関紙「半蔵門通信」「Happy Times」を発行する。地域の高齢者からの聞き取りをして、街の記憶を再生し、また交流会、あいさつ運動をして対話の機会を深めたい。

Q：今年は2500部ということで、飛躍的に伸びているが、反響はどうか？

A：主に店舗に置いているが、他に図書館に置いていて、

評判も良いようだ。事務所に訪ねて来る方も増えてきて嬉しい思いだ。

Q：若い力との連携ということで、まちづくりサポートに出ている学生団体とコラボして協力してはどうか？

A：半蔵門通信を見て、今回メンバーに入った上智大学の学生の力添えで、講演会のチラシを貼らせていただいていた。これを起点に発展していきたい。今回トライアルの学生団体とも連携していきたい。

Q：非常に堅実な仕事で大いに評価している。特に高齢者の記憶の再生、人々の間の意思の疎通。グループメンバー以外の協力者とあったが、これから地元へ根差したアプローチをしていくということなのか。

A：講演会にも出ていただいた社会福祉協議会には福祉部というのがあって、そこと友好的な活動になるようにしたい。

一般部門 助成申請1回目

9

（エイブル・アート・ジャパン） まちづくりは人づくり！「エイブルアート講座&ワークショップ」

私たちは、1994年の創立以来、アートは人と人、人と場所をつなぐものである、アートは人が生きるのを助ける役割がある、という理念に基づき活動を展開してきました。ここ千代田においてもアートの力を通し、市民が活気ある交流・交感出来る場所づくりを実施したいと考えます。また、まちづくりの原点は人づくりそのものだと考えます。そのためには障害のある人や社会的に生きづらさを抱える人たちを含め、人が元気になり、互いの創造性を発

見し、豊かなコミュニケーションを育むプログラムが必要だと考えます。

Q：どういった経緯で中野から千代田にきたのか、今後どういった見通しがあるか？

A：障害とアートにこだわってやってきた。1990年代から、助成金等を活動支援先に渡す中間支援組織をしてきたが、場所はある意味、意味を成さなかった。2000年代からは障害のある人たちの芸術文化活動



が地域で認められ、今ではそれがさまざまな仕事に繋がっている。活動拠点を千代田に移したのは、新しいアートの可能性を地域社会に生かしていこうという「アーツ千代田3331」の1事業所としてお声がかかったという経緯がある。

Q: 千代田区に関わり、根付かすための活動費はどのよう

なところが重要か?

A: 江戸の技、江戸の味というプログラムをやっている。千代田区内の職人や店主さんを招いて、その技からまちや歴史というものを知っていこうというもの。これ以外にもまちの方たちと接点をつくるプログラムがある。障害者を持つ親からの声を自分たちの課題として受け止め、講座やワークショップの中で、障害者が参加し、まちの人が支えるということをチラシ・webサイト等で知らせるため、今回の助成金の30万円を広報活動にあてたい。

10

(神田.SUM)

マンション住民の地域参加の可能性と地域への提言



千代田区民の8割は、今やマンション住民が占めている。千代田区は古くから町会という自治組織があるが、マンション

住民はどのように町会事業に関わってよいかわからない。しかし町会側もマンション住民に対して決してウェルカムでもない。もし地震や火災が起きた時、マンション住民と旧住民はどうすれば良いのか。マンション住民は祭等のイベントにどのように参加すれば良いのか。又、街の魅力や歴史を新住民が知るにはどうしたら良いのかを活動の目的として設立しました。他町会に先駆けてひとつのモデルケースになればと思っています。

Q: まさに地域の課題だが、町会に入会してほしいというのが前提にあるのか?

A: 今は千代田区の条例で、マンションを建てる町会に

入ってもらような仕組みになった。世帯数割りで入ようになっているが、町会からしてみるとお金は増えるが、どんな人が住んでいるかわからないから町会参加はご遠慮願いたいということが問題点。新しい方を入れなければ町会も古いメンバーで同じ顔触れで運営しなくてはならなくなっている。

Q: 新旧会員の垣根を取って交流をしたいということですが、町会は区から世帯割りで助成金をもらっているのでもちサポを利用しなくても、町会でできることではないのか?

A: 古い住民は町会費をマンションの住民に使わせてくれない。マンションで永住したくて神田のことを知りたい人もいる。

Q: どういう情報誌を作りたいのか?

A: 地域密着型で、どの病院に行けば良いかや、タイムリーな地域の情報をかわら版に載せ提供し、顔見知りになるようにしたい。

11

(Live With Dream)

千代田区内バリアフリー情報マップ作り



千代田区内の駅、道やお店、トイレ、観光名所、重要文化財などの段差、エレベーターや点字の有無などを調べて、バ

リアフリー情報満載の地図を作る。

これによって住人も、観光客(ベビーカーから体の不自由な方まで)と共に歩きやすい町を目指す。

Q: 本来こういったことは行政がやるべきこと。大変なことなので助成金をもらって全区域達成できるのか心配。行政や社会福祉協議会に要望を出すこともやっているのか?

A: 十数年前に社会福祉協議会が、ボランティアの視点から作った地図があるが、活用できるものではない。なかなか行政は動かないので、実際困っている人が投げかけていくことが出来れば、一番良いと思う。3年間で網羅できるとは思っていない。メンテナンスも必要。活動

を続けて、そのうち行政が中心になってやっていければ良い。

Q: 観光客とあるが、今までと違った観光的な要素が加わったものを考えているのか?

A: 千代田区に足を踏み入れる全ての方に、ここを通れば通りやすいとわかってもらえるようにしたい。

Q: ホームページ、マップなど何が一番良いと考えているか?

A: ホームページは見やすく、見たい部分が検索できるが、ホームページを見ない人もいる。そこまで調べなくても駅に行ったらあった!というほうが役立つと思う。ホームページは細かくわかりやすく作り、紙ベースのマップは見やすくわかりやすく作りたい。

トライアル部門

12

(千代田の野鳥と自然の会)

千代田区内の野鳥調査および報告書の刊行



1998年、本会は千代田区の野鳥や自然を観察する市民の会として発足したが、発足時より千代田区をフィールド

に、毎月の皇居東御苑の野鳥調査、冬場のお堀の水鳥調査、春から秋にかけてはツバメの生息調査を行ってきた。膨大な調査データが集まっており、大都会の中心に位置する千代田区にも、予想外にさまざまな野鳥がいることがわかった。今回、活動及び調査報告書刊行のため助成を申請する。

Q: 報告書の刊行がいつ頃で、どのように作るのか?

A: 膨大な調査データが集まっているので、7月までには出したい。

Q: 子供と巣箱を作り、バードウォッチングをして巣箱チェックというワークショップをやっているが、何か一緒に出来ることはあるか?

A: 会員に現役が多くなかなか時間はとれないが、今でも巣箱について問合せがあった。出来れば巣箱ではなく緑を増やしてほしい。なぜかというスズメが入ったりして特定の鳥が増えてしまう。環境を整えることを考えてほしい。

Q: 千代田区は環境モデル都市である。データもあるということで、野鳥と自然というのはとても可能性を感じる。

13

(たまごかけごはん TKG16~東京家政学院大学~)

千代田の高齢者を消費者被害から守ろう!



高齢者の割合が増すにつれ、高齢者が対象となっている消費者被害が増加している。そういった状況を受け、行政、民間では、民生委員やヘルパー、ボランティアなどと協力しているが、被害が増加していることを考えると、さらなる対策が必要である。そこで我々が普段から学んでいる「消費者教育」の知恵を活かしたい。千代田キャンパスを中心に千代田の地域に広げたい。具体的には、高齢者自身が参加して、対策を講じていくのである。さらに「祭り」といったイベントを通じて高齢者同士のネットワークを作りコミュニティを再構築して、相互に情報共有、助け

合いを出来る体制を作りだしたい。最終的には、そのネットワークに対する、防犯グッズの配付等を考えている。

Q: なぜ千代田まちづくりサポートにトライアルとして申請したのか?

A: 大学で受けている教育を実践し、ものとして残したいと考えた。今回の助成を使いステッカーを配布したい。

Q: 高齢者を外に出すという活動で、結びの会と似ているところがあるため、結びの会と助け合いながらの活動ができるか?

A: はい。

Q: 活動を三番町から始めるということだが、三番町でコミュニティが作れそうか?

A: 商店街の方にアプローチをかけて話を聞いている。



私たち四ツ谷活性化プロジェクトは自分達が関わっている“まち”に興味をもった上智大学を中心とした学生です。

私達学生は、四ツ谷・麴町地域において地域参加が十分ではなく、商店街などの街の魅力は存在するのに、そのイメージすら持っていません。四ツ谷・麴町地域の活性化のためには学生の力が有効であり、地域の活動を学生に知ってもらい、その活動に参加してもらうことが必要だと思います。地域と学生をつなぐ役割を果たし、地域の活性化の象徴として提灯祭りを実施したいと考えています。

私たち四ツ谷活性化プロジェクトは自分達が関わっている“まち”に興味をもった上智大学を中心とした学生です。私達学生は、四ツ谷・麴町地域において地域参加が十分ではなく、商店街などの街の魅力は存在するのに、そのイメージすら持っていません。四ツ谷・麴町地域の活性化のためには学生の力が有効であり、地域の活動を学生に知ってもらい、その活動に参加してもらうことが必要だと思います。地域と学生をつなぐ役割を果たし、地域の活性化の象徴として提灯祭りを実施したいと考えています。

Q：早稲田も提灯行列をやっている。実行委員会と商店会を同時に立ち上げて、提灯行列を見た人がそのまま帰らないように、商店街も大売り出しをしている。そういったことも考えているのか。

A：これから考えていきたい。

Q：提灯祭りには地域の方は参加されるのか。

A：地域の人も一緒に楽しんでもらうのが企画の趣旨。

Q：来年度以降も色々な活動をするのか。

A：はい、上智大学の体育会連合にも了承を受けている。あとは地域の方の了承を得れば、一緒に積み上げていくことができると思う。

審査会委員講評

早田会長



○神田探偵団

昨年度、助成を受けてたいへん素晴らしい出版物を作成していただきました。一般のまち歩きや観光ガイドとは一味もふた味も違う神田の魅力と想いが詰まった冊子です。まちサポの「猫の手」はもはや必要ないのではという意見も出たくらいですが、地域や関係者など関心のある方が現状では入手困難とのことで、助成金によって広く情報がゆき渡ることが有意義と考え、継続採択としました。神田探偵団の活動は神田の大切な知的資源だと思います。地域からの情報発信を今後も継続していただけることを期待するとともに、神田や千代田のまちづくりグループの発信力の底上げのため、積極的にそのノウハウを地域還元していただけたらと思います。

○エイブル・アート・ジャパン

障害のある人たちのみずみずしい感性あふれる表現活動を支援し、それによって社会に新しい芸術観や価値観を創ることは、公正な社会デザインというまちづくりの重要なテーマです。まちサポでは、これまであまり助成がなかった分野でした。旧練成中学校を改修した新しいアートの拠点「アーツ千代田3331」に誰もが参加できるアートスタジオを運営することは画期的なことだと思います。審査会ではアートを活かした解りやすいプレゼンをしていただき、文化芸術団体としてのミッションがずっと伝わってきました。この活動が千代田に根付き、入居他団体との横断的なネットワークやさまざまな創発の試みが発信されることを楽しみにしています。

窪田副会長



○神田.SUM

神田.SUMは、どのような情報やサポートがあれば、マンション住民が地域の生活に円滑に溶け込んでいけるのか、という思いからはじまった活動だという。新参者が生活の作法を知らないと困るのは、新参者自身でもあるが、受け入れる住民でもある。本活動は、こうした普遍的な課題をすでに実践に移して実績をあげており、活動組織の中に

両者が混ざっているところに特徴があり、魅力がある。情報の提示の仕方には、工夫が必要かも知れない。新参者のみなさんは、様々な場面で隣にいる先輩の所作から生活の作法を自由に学んだうえで新しいライフスタイルを築く。その結果、これまでの生活作法もさらに魅力的に変わる。そんな相互関係を期待したい。

田熊委員



○神田人

千代田の人の輪を広げるために、個々に神田で活動するグループを繋ぎ、情報発信やさらには人的サポートも行うと言う「神田人ネットワーク」。参加メンバーも増え所属サークル自体も活性化しているとの事、昨年からの地道な活動努力が実りつつあります。町会でも商店会でもない神田大好き人間が集まった「神田人」グループは、今までにない新たな視点で、新たな地域交流の場や楽しいコミュニティ作りにも貢献する可能性を感じます。また人の輪は人の和でもあり、おだやかでやさしい持続的な活動が求められます。本年度の活動予定で特に注目すべき点は、高齢者(特に一人住まいの方)が活動の場を得るよう、情報提供をしていくと言う事です。情報ツールである「マイライフノート」や高齢者への接点となる「独自イベント」に期待したい。

○かんだもん

テーマが「観光地としての神田を盛り上げよう!」と言う事。正に観光とは地域の光を観る・観せる事であり、地域独自の光(特性特色)をどの様に見だし、どの様に発信するかで、その活動の良し悪しが決まります。神田に住んでいる人・働いている人・学んでいる人からなる「かんだもん」グループは、メンバー構成も良く地域に浸透し、ユニークな切り口から神田の光を発信しており、地元の目線ではなく客観的で視野の広い企画力・行動力が評価されました。また神田インフォメーションセンターとの連携予定もあるとの事。今までの活動実績が評価され、「かんだもん」が神田のまちの市民権を得たように思われます。今後はマップ・印刷物等の情報発信のさらなる充実と、メンバーが頻りにまちと人と交流する様な「かんだもん」ならではの「顔の見える活動」を期待したい。

谷委員



○結びの会

着実に一歩一歩すすめられている様子がみえ、納得の2年目の審査結果だったと思います。

エントリー内容が、麴町地域がどんどん様変わりしていく中、このような活動を通して御老人にターゲット、外に出て皆で話し合おうと言うコンセプトは、大正解だと思います。

何回か?徳光さんの主催なさる会合に出させていただきましたが、皆さん80~90歳代の方ばかり。時代が変わり代々伝わっていく話。激動の時代を越えられ過ぎてきた方たちの、まさしく生きた字引、本に出てないことも湧き水の如くお話していらっやいました。その姿を拝見して、ぜひともがんばっていただかなくてはと思っています。審査員全員徳光さんの熱さを感じ取られ、興味を持ち、今後を楽しみにしています。若い方たちの参加をフルに生かした活動をしてくださることと思っています。

○四谷活性化プロジェクト

トライアル部門まずはおめでとうございます。

上智の地元である四ツ谷の活性化を、昔なつかしい提灯行列を通して行いたいと言うコンセプト。都電が通っていた時代からは、麴町大通りは様変わりしています。又、以前とは諸事情も大幅に変わっており、結構難しい状況になっていると思います。

四ツ谷はビジネス街に変わりつつあり、町会も企業の参加が多く、マンション住まいの住人も管理費の中からの町会参加になり、なかなかまちの顔が見えにくくなっています。

しかし、地域あつてのまちです。地域・大学をバックに難問題打破してがんばってほしいと思っています。学生ならではの強みもフルに生かしてください。

中嶋委員



○EAST WIND 千代田

自分の住む街、秋葉原駅~神田駅の山手線外側、東側地区を、今は「閑散として寂しい限り」ですが、「活気あふれる街にしたい」と立ち上がったグループです。まちサポ(一般部門)2回目に挑戦です。まずは、ホームページ、情報誌、商店MAPの作成を通じ人の役に立つ、しっかり汗をかいてコミュニティを作る。そして、いつか神田佐久間町公園にそびえるヒマラヤ杉にイルミネーションを点灯しツリーに

変身させる夢を抱いています。

器用とはいえませんが、試行錯誤を繰り返しながら懸命に取り組む姿は感動的です。佐々木代表をはじめEAST WIND 千代田の誠実さ、熱意、そして夢は本物です。審査員の心を大きく動かして、選定されました。

新田委員



○NPO法人 ちぎゅう市民クラブ

3年目の挑戦をいただきましたが、残念ながら今回は見送りとなりました。3年目の審査基準では特に「助成期間終了後の継続性」がポイントになっていました。

公開審査会では、さまざまな角度から、ちぎゅう市民クラブさんが助成期間終了後も千代田区のまちづくりにどのように貢献をいただけるのか、またクラブ自身の継続性について質問がなされました。

異文化理解を推進する活動を通じて、多文化共生時代におけるより受容能力の高い豊かなまちづくり人材を育成するというテーマの重要性や共感を得られていたと思います。残念だったのは、活動企画内容自体は、本年度は上げて発展させる計画になっているにもかかわらず、活動の実施に関わる収支の書き方において、「昨年度実績に基づき」と一括して書かれていたことで

した。助成金は、会員の皆様からの寄付なので、お金の使い方の書き方は重要な要素だと思います。

テーマは素晴らしいと思っていますので、また、ぜひ挑戦をいただきたいです。

○たまごかけごはんTKG16東京家政学院大学

千代田区にキャンパスのある大学から応募があるのは、うれしいことです。大学で学んだ「消費者教育」を大学という枠を超えて地域で実践していくことは重要だと思います。谷委員からの提案で、高齢者の方と知り合う方法として、今回の助成団体「結びの会」にきちんとお手伝いに行き、一緒に進めることを約束されました。自分たちの教育論を実践として、現場の高齢者の方たちときちんとコミュニケーションをとって、なぜ自分たちが、この活動をやりたいと思っているのか、目的を大切にしながら進めていただきたいと思っています。中間報告を楽しみにしています。

三原委員



○神保町Art-Live-Rally実行委員会

今回の発表の中では最も元気と活力を感じさせるグループでした。大学生グループによる神保町の「芸術祭」開催企画で、いわゆる「学生グループ」にありがちな甘さは無く、その本気度、真剣度が伝わってきました。それゆえ、企画の実現性について、地元との連携や調整度合いが課題となりました。また、会場費用の設定など、活動経費の使い方についても、もう少し地道なやり方など工夫があれば良かったと思います。今回は残念ながら助成対象になりませんが、着実に地道な活動の先にこそ大きな花が咲くと考え、再度トライしていただきたいと思っています。

○千代田の野鳥と自然の会

既に区内で地道な活動を継続されてきており、その成果を広く公開したい、との活動趣旨は、発表をお聞きして、もっと大きな可能性がある、展開力がありそうだ、という感触を審査委員全員が共有しました。それは、これまで無かった視点や切り口で、つまり「野鳥の生態」から千代田のまちづくりに示唆を与えていただけるのではないかと、という期待です。例えば、野鳥からみた緑や水辺のネットワークづくりのあり方、区内学校教育や他グループとの連携あるいは企業のCSRなどとのコラボ、より多くの方々との調査成果を共有化する工夫や方法など、今後の活動の展開力に大いに期待しています。

浅古委員



○NPO法人 WEL'S新木場

WEL'S新木場は、障害のある方と行政・企業・地域住民との連携を進め、就労支援や地域の活性化などに寄与する活動を続けていられる素晴らしい団体です。それだけに3回目のチャレンジである今回の審査で助成金0円ということはとても残念に思います。

昨年まではプラットフォームの屋上緑化や化粧水の開発など次回に期待できる活動が発表会でも披露されていました。しかし、今回の提案にはどのように「地域連携」を発展させるのか、団体本来の活動とは違うものは何か、審査員に分かりにくかったのではないかと考えます。また、審査員のイメージとして、当団体は組織もしっかりしており、既に自立して活動ができるとの判断もあったかと推測されます。

審査会ではこのような結果でしたが、これから素晴らしい活動を続け、更に発展していくことを願っています。

○Live With Dream

リーブ・ウィズ・ドリームは1回目のチャレンジですが、千代田区内のバリアフリー情報満載の地図を作るという、大変に手間と根気がある企画だとの印象を持ちました。必要でありながら意外と無いものという気がします。また、完璧にバリアフリーになっている街が日本にあるのかなとも思います。スケジュールでは、夏の暑い時期や冬の寒い時期にまち歩きして情報収集するようですが、無理のないようマイペースで進めていただきたいと思っています。

その中でも、「少し歩みにくくてもこんな工夫をすればいいね」とか、「ここは行政が改良してくれないと無理」など、バリアフリーの施設や道などとともに意見なども入れると、よりインパクトのあるものができるかもしれません。

素晴らしい企画だと思っていますので、審査委員を「あっ」と言わせるような発表を期待しています。

総評（早田会長）



一般部門は11団体の応募があり、8団体の助成が決まりました。トライアルは3団体とも採択となりました。助成総額は294万円です。

これから計画が煮詰まるころはたくさんあるかと思いますが、それでもあえて構わない、期待も含めて助成を決めましたので、是非中間発表会で「こうなりました」と説明して、そこでまた楽しい、詰

まった議論が出来ればと思っています。

世知辛い世の中ですからアウトプットが気になってきますし、資質が問われなければならないと思います。かつて事務局に伺ったことがあります、計画どおり終わらなかった団体にもう一度、助成なしで翌年の実行を命じた例もあります。お金をもらってしまったのだから、後は好きにやらせてもらうというのでは決してありません。途中でさし止め、延期ということもありませんので、是非大切に助成金を使ってください。

第11回千代田まちづくりサポート公開審査会審査結果

部門	申請回数	団体名	代表者	申請額(万円)	一次評価	二次評価	助成対象	助成額(万円)
一般	3	NPO法人 WEL'S新木場	春田 文夫	47	▲▲▲▲▲▲▲◆◆		×	-
一般	3	NPO法人 ちぎゅう市民クラブ	千代鳥 モーミンウティン	50	◆◆◆◆◆◆◆▲		×	-
一般	3	神田探偵団	立山 光昭	50	◆◆◆◆◆◆◆★	●●●●●	◎	32
一般	2	神田人	森岡 潤也	50	★★★★★★◆◆	●●●●●	◎	37
一般	2	かんだもん	小林 絵美	49.4	★★★★★★◆◆	●●●●●	◎	35
一般	2	神保町Art-Live-Rally 実行委員会	山崎 亮輔	50	◆◆◆◆◆◆◆◆		×	-
一般	2	EAST WIND 千代田	佐々木 義治	50	◆◆◆◆◆◆◆★	●●●●●●●	◎	33
一般	2	結びの会	徳光 祝治	45	★★★★★★★	●●●●●	◎	40
一般	1	エイブル・アート・ジャパン	嶋本 昭三	50	★★★★★★◆◆	●●●●●	◎	40
一般	1	神田 SUM	堀井 市朗	48	◆◆◆◆◆◆◆★	●●●●●	◎	26
一般	1	Live With Dream	金子 久美子	41	★★★★★★◆▲	●●●●●●●	◎	36
トライアル	-	千代田の野鳥と自然の会	本多 滋和	5	-	-	◎	5
トライアル	-	たまごかけごはんTKG16 東京家政学院大学	津久井 勝也	5	-	-	◎	5
トライアル	-	四谷活性化プロジェクト	高柳 友明	5	-	-	◎	5

【審査結果】 一次評価：★ぜひ助成したい
◆もう少し説明を聞きたい
▲助成になじまないのでは？
二次評価：●今回の助成対象として推薦する

事務局より連絡

昨年度をもって、5年間に渡ってまちづくりサポートの審査にご尽力くださった鈴木伸治委員(会長)が退任されました。

新しく審査会委員の副会長として、窪田亜矢氏が加わりました。窪田委員は東京大学都市デザイン研究室に所属し、大都市から小さな山村に至る様々な場所で、地域住民や自治体の方々と一緒に、将来像を描きながら現場の問題に取り組んでいます。

編集後記

第12回目となる今回、3団体の活動がまちづくりサポートの助成にはなじまないとされました。その中には3回目の助成申請となった、二つのNPO法人の活動があります。既にNPOとして独立され、それぞれが取り組んでいる活動は大変素晴らしい活動ですが、“まち”若しくは“まちづくり”との接点が弱かったことから、助成対象とならなかったと思われます。是非、“まち”に広がる活動として、また申請していただければと思います。

先日、NPO法人WEL'S新木場さんの「企業内授産施設運営のための普及・啓発活動」が、地域の課題解決を図る事業等を助成する「東京都地域中小企業応援ファンド」の助成対象として採択されました。併せてお知らせします。

審査会委員 (敬称略)

会 長 早田 宰

(早稲田大学社会科学総合学院教授工学博士)

副会長 窪田 亜矢

(東京大学大学院工学研究科准教授工学博士)

委 員 田熊 清徳

(神田技芸祭実行委員長)

谷 真理子

(千代田区青少年委員)

中嶋 利隆

(大手町丸の内有楽町地区再開発計画推進協議会 事務局長)

新田 英理子

(特定非営利活動法人 日本NPOセンター)

三原 久徳

(千代田まちづくりサポーターズクラブ会長)

浅古 清

(千代田区政策経営部特命担当部長)

(財)まちみらい千代田 賛助会員一覧 (敬称略)

2010年9月 現在

※本事業は下記の法人会員と個人会員の支援で運営されています。＜賛助会員募集中＞

【法人会員】		【個人会員】	
業 種	会 員 名	業 種	会 員 名
金 融	興産信用金庫	緑花・環境	日産緑化(株)
	大和証券(株) 本店営業部	広告代理	(株)フィレール
	(株)東京都民銀行 神田支店	IT関連	ウェブリオ(株)
	(株)東日本銀行 飯田橋支店		(株)メディアリンク
	みずほ信託銀行(株)	コンサルタント	NPO法人都市住宅とまちづくり研究会
建築土木	大林道路(株) 関東支店		NPO法人マンション管理支援協議会
	五洋建設(株)		(株)共立エステート
	清水建設(株)	不 動 産	エヌティティ都市開発(株)
	(株)竹中工務店		住友不動産(株)
	中央建設(株)		プラットフォームサービス(株)
	(株)ナカノフドー建設		三井不動産(株)
	前田建設工業(株)		三菱地所(株)
建築設計	(株)ADプロジェクト		安田不動産(株)
	(株)関東設計	そ の 他	秋葉原商店街振興組合
	(株)楠山設計		秋葉原中央通商店街振興組合
	(株)久保工		(株)イサミヤ
	(社)東京都建築士事務所協会 千代田支部		神田古書店連盟
	(株)都市環境計画研究所		東洋美術印刷(株)
	パシフィックコンサルタンツ(株)		フィールファイン(株)
	フレームデザイン(株)		富士ゼロックス(株)
	(株)ラウム計画設計研究所		ヨシモトポール(株)
			青木 孝次
		安孫子 政夫	戸 田 豊重
		阿 部 武志	中 川 典子
		安 藤 岩三郎	二 木 憲一
		飯 塚 克治	早 川 平典
		池 俊 郎	深 川 聡介
		伊 澤 優	藤 本 琢巳
		今 川 守	堀 部 剛正
		浦 田 泉	幕 亮 二
		大 塚 茂	松 島 弓子
		岡 田 貫伍	三 浦 博子
		加 藤 武夫	三 原 久徳
		川 崎 侑孝	三 輪 瑛子
		北 澤 悦子	渡 邊 和
		後 藤 保路	他13名
		小 林 勝彦	
		小 林 誠	
		佐 藤 正幸	
		須 藤 昭雄	
		瀬 川 昌輝	
		立 山 光昭	
		田 村 崇彰	

(法人:42 個人:49 計91)